

故郷（ふるさと）

岡野貞一作曲 高野辰之作詞
番場俊之編曲

うさぎおいし かのやま
こぶなつりし かのかわ
ゆめは いまも めぐりて
わすれがたき ふるさと

いかにいます ちちはは
つつがなしや ともがき
あめに かぜに つけても
おもいづる ふるさと

こころざしを はたして
いつのひにか かえらん
やまは あおき ふるさと
みずは きよき ふるさと

第3回東日本大震災追悼チャリティコンサート
鎮魂と復興への祈り

Johannes Brahms

Ein Deutsches Requiem

ブラームス:ドイツレクイエム

指揮:前田幸康

合唱:東日本大震災メモリアル合唱団

ソプラノ 針生美智子 バリトン 近野賢一

オーケストラ:東日本大震災メモリアル管弦楽団

2014年3月9日(日) 2:30pm

上野学園 石橋メモリアルホール

主催:東京合唱団

東京合唱団

<http://tokyo-gasshodan.com/>

未曾有の大災害をもたらした東日本大震災から早くも3年が経ちました。私たち東京合唱団は他の合唱団にも呼びかけ、大震災のちょうど1周年にあたる2012年3月11日に東日本大震災追悼チャリティコンサート「鎮魂と復興への祈り」を開催いたしました。その後も、被災された方々および被災地への想いを永く忘れないためにこのチャリティコンサートを継続しようということになり、昨年3月の第2回に続き、今回第3回目を迎えることとなりました。本日も来場いただきました皆様に私ども一同、心より御礼申し上げます。

このコンサートで得られた純益金および義援金は、被災地の音楽復興のお役に立ちたいとの思いから、被災地の老人ホームや子どもたちの施設に再生ピアノや様々な楽器をお届けする活動に充てて参りました。これまでに再生ピアノ10台を9施設に、子ども用の太鼓や鉄琴などを2施設にお贈りすることができました。またピアノや楽器の寄贈に併せて合唱団の有志メンバーが現地を訪問してミニコンサートを持ち、皆様と交流を深めることができたことも強く心に残ることでした。これらの内容は本プログラムでご報告しているとおりで、また東京合唱団のホームページ<http://tokyo-gasshodan.com/>にも詳しく紹介しておりますのでご覧いただければ幸いです。

本日演奏いたしますブラームスの「ドイツレクイエム」は、このチャリティコンサートにふさわしい名曲です。私たちは被災地に少しでも「鎮魂と復興への祈り」の想いを届けることが出来ればと、心をこめて演奏したいと思います。本日も来場いただきました皆様、被災地への想いを共にしながら本日の演奏をお楽しみいただければ幸いです。また、終演後ロビーに募金箱を設けておりますので、募金にご協力を賜ればありがたく存じます。

最後に、今回もこれまでの2回のチャリティコンサートと同じく、学校法人上野学園をはじめ多くの団体・企業・個人の皆様から後援と協賛をいただきました。またソリスト、オーケストラの諸先生方にもこの趣旨に賛同いただき快くコンサートへの参加を引き受けていただきました。ここに厚く御礼申し上げます。

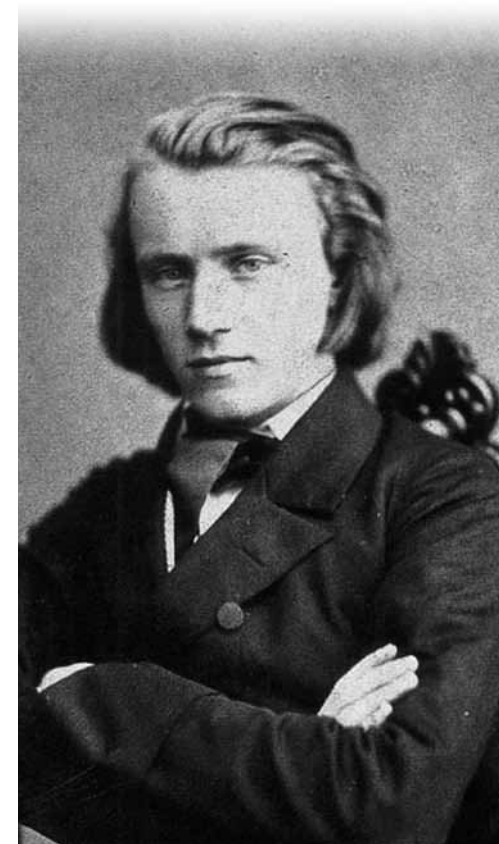
2014年3月9日

東京合唱団団長 市井善博

ブラームス：ドイツレクイエム

Johannes Brahms Ein Deutsches Requiem op.45

- I *Selig sind, die da Leid tragen* 悲しんでいる人たちは幸いである
- II *Denn alles Fleisch, es ist wie Gras* 人はみな草のごとく
- III *Herr, lehre doch mich* 主よ、わが終わりと、わが日の残りの数のどれほどであるかを
- IV *Wie lieblich sind deine Wohnungen* 万軍の主よ、あなたの住まいは
- V *Ihr habt nun Traurigkeit* このように、あなたがたにも今は不安がある
- VI *Denn wir haben hie keine bleibende Statt* この地上には永遠の都はない
- VII *Selig sind die Toten* 今から後、主にあつて死ぬ人は幸いである



20歳頃のブラームス



前田幸康 Yukiyasu Maeda 指揮

国立音楽大学卒業。チェロを小沢弘、黒沼俊夫、小野崎純、マルティン・オースタータークの各教授に師事。1974年1月フライブルク市立交響楽団のメンバーとなる。指揮を前田幸市郎、伊達良、クラウス・ヘーベルマンの各氏に師事。1990年以來日本において指揮活動をしている。W.A.モーツァルト「レクイエム」、J.G.L.モーツァルト「ミサソレムニス」(日本初演)、グラウンのオラトリオ「イエスの死」(日本初演)、ブラームス「ドイツレクイエム」、J.S.バッハ「ミサ曲短調」「ヨハネ受難曲」、フォーレ「レクイエム」、ヘンデル「メサイア」、メンデルスゾーン「パウロ」等を指揮。1985年よりプロアルテ・カンマー・オーケストラ・フライブルクの首席チェリストを務めた。同年にフライブルク市よりカンマーミュージカーの称号を贈られ、1989年には国際文化交流功労賞メダルを同市より授与された。2009年には日本国外務省の国際文化功労賞を受賞。上野学園大学音楽部弦楽学部主任教授。東京合唱団音楽監督。



針生美智子 Michiko Hariu ソプラノ

札幌大谷短期大学卒業、同専攻科修了。文化庁オペラ研修所第11期修了。北海道文化財団、文化庁派遣芸術家在外研修員としてローマに留学。第2回藤沢オペラコンクール第1位および福永陽一郎賞受賞。サンタマルゲリータリグレ国際声楽セミナーで大賞受賞。同地において、「リゴレット」ジルダで出演。二期会会員、東京オペラプロデュースメンバー、東京室内歌劇場会員。上野学園非常勤講師。札幌定期「カルミナ・ブラーナ」をはじめ、第九、「レクイエム」「メサイア」等のソリストを務めている。新国立劇場「ドン・ジョヴァンニ」(ガッツァニーガ)や、日生劇場「セビリアの理髪師」、北海道二期会「フィガロの結婚」、日本オペレッタ協会「こうもり」「メリー・ウィドー」「チャールダッシュの女王」、東京オペレッタ劇場「地獄のオルフェ」「魔笛」等多数出演。2010年二期会「魔笛」夜の女王、'11年日生劇場「夕鶴」つう、'12年松本オペラ「魔笛」夜の女王を演じ好評を博した。



近野賢一 Ken-ichi Konno バリトン

北海道出身。新潟大学、京都市立芸術大学大学院、フライブルク音楽大学を経てミュンヘン音楽演劇大学マイスタークラス修了。声楽を箕輪久夫、宇野徹哉、福島明也、M.ゴリツキ各氏に、リート解釈を岡原慎也、H.ミュラー、H.ドイチュ、S.マウザー各氏に師事。T.クヴァストフ、R.トレケル、D.ヘンシェル、E.アメリック、白井光子、J.デムス、W.リーガー各氏の講習会受講。ソリストとして「ロ短調ミサ」「マタイ受難曲」「ヨハネ受難曲」「メサイア」「第九」「パウロ」「レクイエム(モーツァルト、ブラームス、フォーレ)」等に出演。また、ドイツ歌曲リサイタルをライフワークとしており、これまでに「美しい水車小屋の娘」「冬の旅」「詩人の恋」「リーダークライス作品24&39」「四つの厳粛な歌」「さすらう若人の歌」「子供の不思議な角笛」「リュッケルト歌曲集」等の作品でリサイタルを多数行っている。岡原慎也氏とのリサイタルに対して青山音楽賞新人賞を受賞の他、国内外のコンクールで多数入賞している。岐阜大学声楽非常勤講師。日本ドイツリート協会会員。

東日本大震災メモリアル管弦楽団

2012年、第1回東日本大震災追悼チャリティコンサート「鎮魂と復興への祈り」のために、上野学園の教員有志およびその友人や学生を中心に結成された。日本を代表するオーケストラに所属するメンバーや、プロとして各方面で活躍しているメンバーも含まれている。今回は東京KMG管弦楽団の有志も参加。

東日本大震災メモリアル合唱団

2012年、第1回東日本大震災追悼チャリティコンサート「鎮魂と復興への祈り」開催後、第2回同コンサートのために、東京合唱団が改めて呼びかけて結成された合唱団。東京合唱団有志の他に、台東区合唱連盟加盟の合唱団、上野学園大学・同短期大学部学生・同職員、学習院OB合唱団、東京大学音楽部OB合唱団アカデミカコール等の有志、および多数の一般の応募者から成る。第3回の本コンサートに向けては、これまで約5ヶ月間弱の短期間に厳しい集中練習を重ね、今日を迎えた。

第2回東日本大震災追悼メモリアルコンサート
モーツァルト:レクイエム(2013.3.10 上野学園 石橋メモリアルホール)



永澤麻衣子 Maiko Nagasawa 発声・練習指導

国立音楽大学声楽科卒業。声楽を瀬戸美子、清水明子、田島好一、吉澤祐江の各氏に師事。また、ドイツや日本においてCh.d.プロイン氏に師事し、リート解釈などの研鑽を積んでいる。ヴォイストレーナーとして多くのアマチュア合唱団の指導を行なうとともにソリストとしても活動。東京合唱団発声・練習指導者。

平野裕樹子 Yukiko Hirano 練習ピアニスト

日本大学藝術学部を総長賞を受賞して首席で卒業。読売新人演奏会出演。市川市文化会館新人オーディション優秀賞受賞。室内楽を鳩山寛氏、ピアノを神野明氏に師事。ソロ活動としてこれまでに6回のリサイタルを東京で開催。2008年より東京合唱団練習ピアニスト。

水野彰子 Shoko Mizuno 練習ピアニスト

東京芸藝大学器楽科ピアノ専攻を経て、現在同大学院室内楽科に在籍。第33回PTNAピアノコンペティションG級全国決勝大会入選。大学院で学ぶかわら、ソロ活動、声楽・オペラ伴奏、室内楽、合唱ピアニストとして活動。2013年より東京合唱団練習ピアニスト。

◆第1ヴァイオリン

深山尚久
コンサートマスター

荻野照子

徳井えま

松岡典子

海保あけみ

宮川芳江

小野田輝紀

吉川哲生

◆第2ヴァイオリン

吉原葉子

水村浩司

西本徳子

佐藤明美

河村知里

坊野称央巳

◆ヴィオラ

渡邊信一郎

佐々木真史

磯 晃男

原口朝子

光行 茜

吉田典代

◆チェロ

羽川真介

豊田庄吾

羽川恵子

井崎瑛恵

城戸春子

森 義丸

◆コントラバス

倉持 敦

片岡夢児

追榮 祥

◆フルート

野口博司

多久和怜子

◆ピッコロ

上田章代

◆オーボエ

南方総子

小山祐生

◆クラリネット

榮村 香

田中瑞希

◆ファゴット

鹿野智子

鴨志田夏実

◆コントラファゴット

高林美樹

◆ホルン

湯川研一

丸茂 新

小田原瑞輝

和久田侑希

◆トランペット

海保 泉

民谷和大

◆トロンボーン

小倉史生

谷口 萌

青木治夫

◆チューバ

古川信哉

◆ティンパニ

関川咲紀

◆ハープ

井上美江子

◆オルガン

小林英之

ヨハネス・ブラームス:ドイツレクイエム

Johannes Brahms

Ein Deutsches Requiem op.45

I Selig sind, die da Leid tragen,
denn sie sollen getröstet werden.

Die mit Tränen säen,
werden mit Freuden ernten.

Sie gehen hin und weinen
und tragen edlen Samen,
und kommen mit Freuden
und bringen ihre Garben.

II Denn alles Fleisch es ist wie Gras,
und alle Herrlichkeit des Menschen
wie des Grases Blumen.
Das Gras ist verdorret
und die Blume abgefallen.

So seid nun geduldig, lieben Brüder,
bis auf die Zukunft des Herrn.
Siehe, ein Ackermann wartet
auf die köstliche Frucht der Erde
und ist geduldig darüber, bis er empfahe
den Morgenregen und Abendregen.

悲しんでいる人たちは幸いである。
彼らは慰められるであろう。

(マタイによる福音書:第5章 第4節)

涙をもって種をまく者は、
喜びの声をもって刈り取る。

(詩篇:第126篇 第5節)

種を携え、涙を流して
出て行く者は、
束を携え、喜びの声をあげて
帰ってくるであろう。

(詩篇:第126篇 第6節)

人はみな草のごとく
その栄華はみな
草の花に似ている。
草は枯れ、
花は散る。

(ペテロの第1の手紙:第1章 第24節)

だから、兄弟たちよ、
主の来臨の時まで耐え忍びなさい。
見よ、農夫は、地の尊い実りを、
前の雨と後の雨とがあるまで、
耐え忍んで
待っている。

(ヤコブの手紙:第5章 第7節)

Denn alles Fleisch es ist wie Gras,
und alle Herrlichkeit des Menschen
wie des Grases Blumen.
Das Gras ist verdorret
und die Blume abgefallen.
Aber des Herrn Wort
bleibet in Ewigkeit.

Die Erlöseten des Herrn
werden wieder kommen,
und gen Zion kommen mit Jauchzen;
ewige Freude wird über ihrem Haupte sein;
Freude und Wonne werden sie ergreifen,
und Schmerz und Seufzen wird weg müssen.

III Herr, lehre doch mich,
dass ein Ende mit mir haben muss,
und mein Leben ein Ziel hat,
und ich davon muss.

Siehe, meine Tage sind einer Hand
breit vor dir,
und mein Leben ist wie nichts vor dir.

Ach, wie gar nichts sind alle Menschen,
die doch so sicher leben.
Sie gehen daher wie ein Schemen,
und machen ihnen viel vergebliche Unruhe;
sie sammeln und wissen nicht
wer es kriegen wird.
Nun Herr, wes soll ich mich trösten?
Ich hoffe auf dich.

Der Gerechten Seelen sind in Gottes Hand
und keine Qual rühret sie an.

人はみな草のごとく
その栄華はみな
草の花に似ている。
草は枯れ、
花は散る。
しかし、主の言葉は、
とこしえに残る。

(ペテロの第1の手紙:第1章 第24～25節)

主にあがなわれた者は、
帰ってきて、
その頭に、とこしえの喜びをいただき、
歌うたいつつ、シオンに来る。
彼らは楽しみと喜びとを得、
悲しみと嘆きとは逃げ去る。

(イザヤ書:第35章 第10節)

主よ、わが終わりと
わが日の残りの数のどれほどであるかを
わたしに知らせ、わが命のいかに
はかないかを知らせてください。

(詩篇:第39篇 第4節)

見よ、あなたはわたしの目を
つかのまとされました。
わたしの一生はあなたの前では無にひとしいのです。

(詩篇:第39篇 第5節)

まことに人は影のように
さまよいます。
まことに彼らは
むなしいことのために騒ぎまわるのです。
彼は積みたくわえるけれども、
だれがそれを収めるかを知りません。
主よ、今わたしは何を待ち望みましょう。
わたしの望みはあなたにあります。

(詩篇:第39篇 第6～7節)

正しい者の魂は神のみ手にあって、
いかなる責苦も彼らに届くことはない。

(旧約続篇:ソロモンの智慧:第3章 第1節)

IV Wie lieblich sind deine Wohnungen,
Herr Zebaoth!
Meine Seele verlangt und sehnet sich
nach den Vorhöfen des Herrn;
mein Leib und Seele freuen sich
in dem lebendigen Gott.

Wohl denen, die in deinem Hause wohnen,
die loben dich immerdar.

V Ihr habt nun Traurigkeit;
aber ich will euch wiedersehen
und euer Herz soll sich freuen,
und eure Freude soll niemand
von euch nehmen.

Sehet mich an:
Ich habe eine kleine Zeit
Mühe und Arbeit gehabt
und habe grossen Trost funden.

Ich will euch trösten,
wie einen seine Mutter tröstet.

万軍の主よ、あなたの住まいは
いかに麗しいことでしょう。
わが魂は絶えいるばかりに
主の大庭を慕い
わが心とわが身は
生ける神にむかって喜びを歌います。

(詩篇:第84篇 第1～2節)

あなたの家に住み、
常にあなたをほめたたえる人は幸いです。

(詩篇:第84篇 第4節)

このように、あなたがたにも今は不安がある。
しかし、わたしは再びあなたがたと会うであろう。
そして、あなた方の心は喜びに満たされるであろう。
その喜びをあなたがたから
取り去るものはいない。

(ヨハネによる福音書:第16章 第22節)

眼をもって見よ。
いかにわたしが少く労して
わたしのために
多くの休みを得たかを。

(旧約続篇:ベン・シラの智慧:第51章 第27節)

母がその子を慰めるように
わたしもあなたがたを慰める。

(合唱のみ:イザヤ書:第66章 第13節)



VI Denn wir haben hie keine bleibende Statt,
sondern die zukünftige suchen wir.

Siehe, ich sage euch ein Geheimnis:
Wir werden nicht alle entschlafen,
wir werden aber alle verwandelt werden;
und dasselbige plötzlich, in einem Augenblick,
zu der Zeit der letzten Posaune.
Denn es wird die Posaune schallen,
und die Toten werden auferstehen
unverweslich,
und wir werden verwandelt werden.
Dann wird erfüllt werden
das Wort, das geschrieben steht:
Der Tod ist verschlungen in den Sieg.
Tod, wo ist dein Stachel?
Hölle, wo ist dein Sieg?

この地上には永遠の都はない。
きたらんとする都こそ、わたしたちの求めているものである。
(ヘブル人への手紙:第13章 第14節)

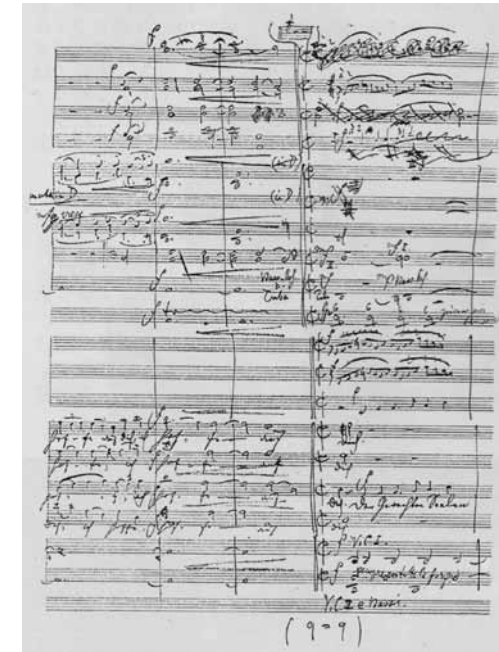
ここで、あなたがたに奥義を告げよう。
わたしたちすべては、眠り続けるのではない。
終りのラッパの響きと共に、
またたく間に
一瞬にして変えられる。
というのは、ラッパが響いて、
死人は朽ちない者に
よみがえらされ、
わたしたちは変えられるのである。
そのとき、聖書に書いてある
言葉が成就するのである。
「死は勝利に吞まれてしまった。
死よ、おまえのとげはどこにあるのか。
地獄よ、おまえの勝利はどこにあるのか」
(コリント人への第1の手紙:第15章 第51、52、54、55節)

Herr, du bist würdig zu nehmen
Preis und Ehre und Kraft,
denn du hast alle Dinge erschaffen,
und durch deinen Willen haben sie das Wesen
und sind geschaffen.

われらの主なる神よ、あなたこそは、
栄光とほまれと力とを受けるにふさわしいかた。
あなたは万物を造られました。
御旨によって、万物は存在し、
また造られたのであります。
(ヨハネの黙示録:第4章 第11節)

VII Selig sind die Toten,
die in dem Herren sterben,
von nun an.
Ja der Geist spricht,
dass sie ruhen von ihrer Arbeit;
denn ihre Werke folgen ihnen nach.

今から後、
主にあつて死ぬ人は
さいわいである。
御霊も言う、
「しかり、彼らはその労苦を解かれて休み
そのわざは彼についていく」
(ヨハネの黙示録:第14章 第13節)



ブラームス自筆譜「ドイツレクイエム」

ヨハネス・ブラームス、そしてドイツレクイエム

ブラームスの時代

ドイツレクイエムの作曲者、ヨハネス・ブラームスはいつ頃の時代の人でしょうか。白いあごひげのブラームスの写真を見るとすいぶん昔の人のような感じがします。

しかし、意外に近年の人で、1833年生まれ。日本は江戸時代の終わり、天保の大飢饉の頃で、西郷隆盛より6歳若いこととなります。死去したのは1897(明治30)年、64歳でした。この頃、京都では市電が走り始めて2年ほど経っていました。

ブラームスの若い頃にはイギリスで発明された蒸気機関がドイツにも導入され、これまで馬車にたよっていた移動の手段が汽車に替わり、人と物資の移動に大きな変化が起こったのです。

もうひとつ、近代科学の発達之恩恵を受けたものに写真術があります。これまでの画家の描

写による肖像が、白黒ながら写真で記録に残るようになりました。

ブラームスは、鉄道には大変興味をもち、新しい線が開通すると早速その列車に乗りに行った記録があります。また写真に撮られることを厭わず、好んでモデルになっていたようで、普段着姿の写真などもたくさん残っています。

このようにブラームスは新しいものに興味をもち、利用する一方、音楽では古い音楽、バッハやバッハ以前の古い作曲家の技法を研究し、ことにドイツレクイエムではフーガの手法やメロディも取り入れるなど、単なる“新しいもの好き”ではないことがわかります。

ブラームスの生い立ち

1833年、北ドイツのハンブルクに生まれました。ブラームスの父は息子が幼い頃から音楽に



非常に興味を示すことから、音楽の教師をつけて育て、よい教師のおかげで苦勞しながらも音楽の道を進むことができました。

ブラームスが15歳のとき、ヴァイオリンの名人、ヨアヒムがハンブルクにきてベートーヴェンのヴァイオリン協奏曲を弾くのを聴き、作曲家の道に進むことを決心したと伝えられています。

20歳のとき、ハノーファーに住むローベルト・シューマン夫妻を訪問しました。シューマンはブラームスの才能を見抜き、しばらくシューマン家へ滞在することを勧めました。シューマンがブライトコップ社に紹介してブラームスは作品を出版することが出来たのです。

シューマンはこのあと精神異常を來たし、死去しますが、ブラームスは恩師シューマンの未

亡人クララへ献身的な援助を続けます。やがて二人はそれぞれの道を進むことになりました。

ドイツレクイエムの作曲

恩師シューマンの遺品の中に、「ドイツ語でレクイエム」というメモをブラームスは見つけました。これがきっかけでドイツ語によるレクイエムを企てたようですが、その後はハンブルクにいたブラームスの母親の死がドイツ語のレクイエムの作曲意欲を刺激したものと考えられます。

ドイツレクイエムと、あえてドイツ語でのレクイエムを作曲しようとした理由について種々の憶測がありますが、これまでのラテン語のレクイエムは、カトリックの死者のための典礼の音楽であることに対して、人間の感情に密着し

た、むしろ残された人間への慰めの音楽にしたいと考えたのです。

そのため、ルターのドイツ語訳の聖書や外典からブラームス自身の意向で選び出したテキストに作曲をはじめました。

1868年、ドイツレクイエムの最初の3楽章のみがウィーンで初演されました。この第3楽章の後半は綿密に計算された長大なフーガなのですが、難しい上に練習不足もあって大混乱に至り、甚だ不評だったと伝えられています。

それからブラームスは4、5、6、7楽章をつけ加えて、1869年にライプツィヒで全曲が演奏され、聴衆に深い感銘を与えたのでした。作曲を企ててから10余年、ようやく宗教音楽の作曲家として名声を確立することが出来たのです。最後に完成した第5楽章のソプラノ独唱つき楽章は母の思い出の残るハンブルクで作曲されています。弱音器をつけた柔らかい弦の響きと美しいソプラノ独唱は、亡き母への思いがにじみ出ているように思えます。

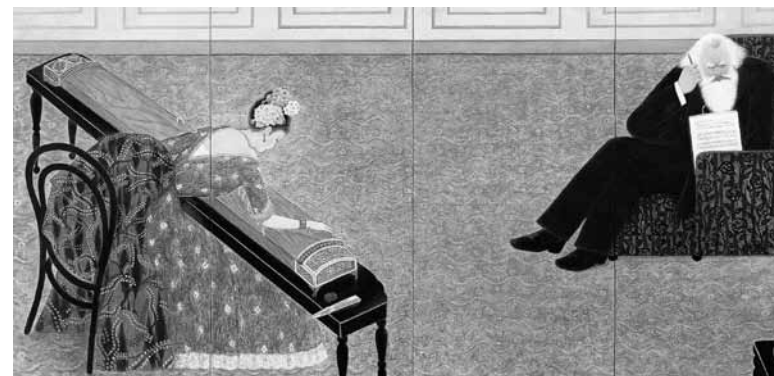
ブラームスと日本

ブラームスと日本はまったく縁がないと思われていましたが、実は箏曲「六段」を通じて交わ

りがあったことが最近判明しました。

ブラームスは独身であったため、彼の資料は死後すべてウィーン楽友協会に保存されていますが、その中に箏曲「六段」が採譜されていて、ブラームスの筆跡で訂正が記入されていたのです。このことについて、楽友協会から日本の音楽学者、大宮真琴氏に調査が依頼され、大宮氏の苦心の結果判明したのですが、それによると1887年頃にウィーンに赴任していた全権公使、戸田氏共伯爵の極子夫人が箏の名手であることを聞いたブラームスは、ぜひ「六段」を弾いて欲しい旨伝えてもらい、極子夫人が弾く「六段」の曲を聴いてすでに五線譜上に採譜してあった音符の差異を訂正したことが明らかになりました。極子夫人は岩倉具視の長女で「鹿鳴館の華」と言われた名花でした。

ブラームスが「六段」を聴いたというこの話は1985年頃大変なニュースになったようでした。戸田公使は大垣城の殿様の末裔でしたので、このニュースを聴いた大垣出身の日本画家、守屋多々志画伯が「ウィーンに六段の調(ブラームスと戸田伯爵極子夫人)」と題する日本画を制作、1992年の秋、第77回院展に出品されています。



「ウィーンに六段の調(ブラームスと戸田伯爵極子夫人)」
日本画家、文化勲章受賞 守屋多々志 作/大垣市守屋多々志美術館 所蔵

曲目について

第1曲：
悲しんでいる人たちは幸いである(合唱)
「かなりゆるやかに、表情をつけて」
華やかさを抑えるためか、この楽章のみヴァイオリンは休む。

第2曲：
人はみな草のごとく(合唱)
「ゆるやかに、行進曲風に」
3拍子でありながら行進曲風。ティンパニのリズムが印象深く、重い足取りを表現している。

第3曲：
主よ、わが終わりとわが日の残りの数のどれほどであるかを(バリトン独唱、合唱)
「アンダンテ・モデラート」
主にわが命の残りを教えて、と訴える。後半はフーガになり、初演のときは混乱に至った難曲。オーケストラは鳴り続けるブラームス特有の低音の連続が印象的である。

第4曲：
万軍の主よ、あなたの住まいは(合唱)
「適度に、運動的に」
第3楽章に比べて対照的な安らぎに満ちている。トランペット、トロンボーンは用いられず穏やかに進む。

第5曲：
このように、あなたがたにも今は不安がある(ソプラノ独唱、合唱)
「ゆるやかに」
一番最後に作曲され、ソプラノソロが明るい慰めに満ちた歌を唄う。ハンブルクで作曲され、亡き母親への思慕が偲ばれるようだ。

第6曲：
この地上には永遠の都はない(バリトン独唱、合唱)
「ゆっくりと」
通常のレクイエムでは「怒りの日」に相当する部分で、壮大なクライマックスにいたる。全曲中で最も聴き手を圧倒する激しい曲。

第7曲：
今から後、主にあつて死ぬ人は幸いである(合唱)
「荘厳に」
死の恐怖は消え、昇天した人は永遠の憩いに入る。後半では第1楽章の終わりと同じ音楽になり、全曲が環のように締めくくられ、穏やかに、静かに終わる。

本文の作成に際して、渡辺茂氏、西原稔氏の著述を参考にさせていただきました。

東京合唱団 バス 葛西英一



- | | | | |
|-------|--------|-------|-------|
| ◆ソプラノ | 室木梨沙 | 花形由美 | 中村晴永 |
| 市井さゆり | 山口恵子 | 平石恵津子 | 成田本行 |
| 上野由起子 | 山下文子 | 広瀬容子 | 沼野 博 |
| 大森みま子 | 山本枝実子 | 藤田香織 | 花岡典夫 |
| 大楠幸子 | 横山美恵子 | 松田和子 | 布施斗志男 |
| 岡本智子 | 吉田小智子 | 森 米子 | 細川 仁 |
| 加藤方子 | 渡辺規子 | 矢野良子 | 安田春夫 |
| 加藤雅子 | | 山崎由美子 | |
| 橋田浩子 | ◆アルト | 山田久子 | ◆バス |
| 木村芳枝 | 青木由実子 | 山田ゆかり | 青木修三 |
| 小池直子 | 荒井華子 | 吉村節子 | 荒川昌夫 |
| 小林真利子 | 伊藤静子 | | 市井善博 |
| 小林陽子 | 今溝恵子 | ◆テノール | 植木 健 |
| 坂井田廣子 | 岩端由美子 | 石井泰裕 | 梅田正太 |
| 坂田真由 | 内田友子 | 伊藤正徳 | 大橋正教 |
| 佐々木香織 | 恩蔵恵子 | 上野紘機 | 葛西英一 |
| 滋野奈津美 | 加倉井今日子 | 太田紘子 | 近藤安雄 |
| 仙波京子 | 梶原典子 | 梶川 浩 | 近 正明 |
| 楚山静子 | 鴨澤小織 | 上島 敏 | 三才萬里 |
| 竹内真名 | 河田美由紀 | 岸 柁文 | 竹内智之 |
| 竹田貴子 | 栗原汐里 | 木村悦郎 | 田澤雅昭 |
| 棚橋佳子 | 小柴ひとみ | 栗原康明 | 任田弘道 |
| 田上真由美 | 小林史子 | 小谷一夫 | 中野弘一 |
| 遠山木乃美 | 佐藤容子 | 塩谷隆英 | 広畑俊成 |
| 中川雅子 | 白井悦子 | 塩澤広士 | 山口 和 |
| 中野克代 | 高橋洋子 | 島田謙治 | 山岡成行 |
| 永瀬いち子 | 瀧来佐穂 | 田中 力 | 山本洋一 |
| 早川由希子 | 多田久子 | 田中英之 | 吉富六郎 |
| 平岡ひろ子 | 津賀恵理 | 田中雅章 | |
| 松下由美 | 土屋貴子 | 富松太基 | |
| 三井偉代 | 中島玲子 | 長尾正樹 | |

第1回(2012年3月11日)、第2回(2013年3月10日)東日本大震災追悼チャリティコンサートの純益金と当日会場での皆様からの義援金は、被災地に再生ピアノや鼓笛隊用のドラム等の楽器類をお届けする費用に充てました。

2012年度には、宮古市の介護老人保健施設「ほほえみの里」(後にグループホーム「たろう」に移管)、田野畑村の特別養護老人ホーム「リアス倶楽部」、岩泉町のグループホーム「いわいずみ」、釜石市の託児施設「虹の家」、仙台市の特別養護老人ホーム「春の森から」および名取市の介護老人保健施設「なとり」に再生ピアノ各1台、計6台を寄贈いたしました。

2013年度には、大槌町の「大槌保育園」に再生ピアノを2台、釜石市鶴住居の「鶴住居保育園」および大槌町吉里吉里の「吉祥寺」に再生ピアノを各1台、また、大槌町の「みどり幼稚園」および「鶴住居保育園」に鼓笛隊用のドラム等の楽器類をそれぞれ寄贈いたしました。

また、ピアノの寄贈に併せて合唱団の有志メンバーが現地を訪問してミニコンサートを開くなど、これら施設に入居されている方々や園児たちとの交流も深めることができました。

なお、気仙沼市の「鹿折学童センター」へ寄贈を予定していた再生ピアノは、都合により上記の「鶴住居保育園」への寄贈に充てました。

2回の追悼チャリティコンサートに関わってくださった皆様、またご来場いただいた皆様に改めて厚くお礼申し上げます。



岩手県上閉伊郡大槌町 大槌保育園



岩手県釜石市 鶴住居保育園

大槌保育園にピアノを届けました

2013年7月、東京合唱団および東日本大震災メモリアル合唱団の有志10人で、岩手県大槌町の大槌保育園を訪問して、ささやかなピアノ贈呈式と保育園児達との歌の交流を楽しんだ。団員の運転する2台のレンタカーで、津波で地形が変わってしまって、カーナビがあまり役に立たない道を迷いながら、ようやく保育園に辿りつくと、年長の園児30人余りと保育士さんたちが前日に届けられたピアノの前にきちんと座って待っていてくれた。八木澤弓美子園長の号令一下、園児たちに「みなさん、おはようございます」と大きな声で挨拶された。市井善博東京合唱団団長が読み上げた贈呈状には、次のように書かれていた。

「……私たちは 去る平成二十四年三月十一日および平成二十五年三月十日上野学園石橋メモリアルホールにおいて東日本大震災追悼チャリティコンサート『鎮魂と復興への祈り』を開催しました。コンサートに参加した全員の願いを込めてこのピアノをお贈りいたします。

このピアノを囲んで楽しいひとときをお過ごしいただければ、私たちは大変嬉しく、また光栄に存じます。」

2回の追悼チャリティコンサートに参加してくれた全員とこれを協賛、後援して下さったすべての方々の思いが、いたいけない子どもたちに伝わったはずもないが、彼らが大きくなったとき、こんなこともあったと思いついてくれさえしたら、それでよいと思う。

そろいの黄色いポロシャツに身を固め、「となりのトトロ」より「さんぽ」を歌いながら入場すると、子どもた



大槌保育園



大槌町 みどり幼稚園



鶴住居保育園



大槌保育園



ちも手を叩きながら、大きな声で歌ってくれた。なによりリズム感が素晴らしい。団員の歌唱指導とピアノ伴奏によって唱歌メドレー「ふるさとの四季」から「春の小川」など5曲を歌うと、子どもたちも目をキラキラさせながら一生懸命に歌った。この中には、保育士に背負われて津波に追いかけてられながら逃げ惑った子どももいるに違いない。あるいは、親を亡くした子もいるかもしれない。そんな心の傷をいつきでも忘れてくれたらいいと願ってこの日のために団員たちが製作したひよこや雀のかぶりものをかぶって「かわいいかくれんぼ」のお遊戯をよたよたとする我らおじさん、おばさんたち。子どもたちの無邪気な笑い声がこちらの気恥ずかしさを打ち消した。結局、こちらが子どもたちに遊んでもらっていたようだった。

私たちが寄贈を約束したあと、大槌保育園は、マスコミによって大きく取り上げられた。報道によれば、大地震のあと、八木澤園長は、100人あまりの保育園児を避難所に指定されていたコンビニエンス・ストアに避難させ、迎えに来た保護者に引渡した。津波が襲ってくるといふ警報に、八木澤園長は、この避難所では危ないと判断し、迎えがなかった30人の子どもたちを、保育士とコンビニの従業員に手伝わってもらって、近くの山に這い登って助け上げた。果たして、そのコンビニも津波に流されてしまったという。

町民約1万5千人のうち1200人余りが津波の犠牲になったと言われる岩手県大槌町の保育園から、園舎が再建されたらピアノが欲しい、できれば各部屋におきたい

ので2台だけじゃないか、という要請が寄せられたのは、一昨年の春頃だったと思う。なるべく多くのところへという思いから1施設に2台は?という意見も出たが、町長以下町の職員が数十人庁舎ごと津波に流されたような激甚災害からの復興を励ます意味を込めて、要請に応えることになった。限りない未来を持つ30人の子どもたちの命を救ってくれたことを知ってからは、これに対する感謝の思いも加わった。幸い、栃木県真岡市にある小野ピアノ工房調律センターの小野哲さんが修理調律を終えて再生されたアップライトピアノ2台を寄贈して下さることになり、園舎の再建を待って、約束が果たされることになった。

真岡の工房を訪ねたとき、小野さんは、「古いピアノは、劣化した金属や繊維を取り替えれば、木の部分は古くなればなるほどいい音を出すので、十分再生できるのですよ」と言われた。再生技術を伝承するために全国から集まって来る弟子の育成にも努力されているという。再生ピアノを被災地に届けることには、そうした思いを伝えるという意義もあると思う。

新品のピアノに決して引けをとらないほど磨き上げられ、人々の心のコもったピアノの音を聞くと、子どもたちは、きっと何かを感じてくれるに違いないと思う。「また来てねー」と屈託のない笑顔で見送ってくれたこの子たちの未来に多くの幸せがもたらされることを願わずにはいられなかった。

大波に追れしことは忘れしや大槌の児ら歌朗らかに
追悼コンサート実行委員長 塩谷隆英

本チャリティコンサートの純益金について



本チャリティコンサートの純益金は、今回も東日本大震災被災地の音楽の復興に直接役立つように使わせていただきたいと思いますと考えております。具体的には、被災地へ楽器や修理・調律を済ませた再生ピアノを届ける費用に充てます。

第1回、第2回のコンサート純益金の使用に関しては、本プログラム14、15ページにご報告しているとおりです。

コンサート実現にお力をいただきました全ての皆様に改めてお礼申し上げます。

なお、ピアノなどの楽器を必要としている被災施設、およびピアノなどの楽器を被災地へご寄付いただける方々の情報がございましたらお寄せ下さい。詳しくは、東京合唱団のホームページをご覧ください。



東京合唱団次回演奏会のお知らせ 定期演奏会(創立60周年記念)

2014年10月13日(月・祝) 午後2時開演

紀尾井ホール

曲目:A.ドヴォルザーク:レクイエム

指揮:前田幸康 管弦楽:東京KMG管弦楽団

■参加者を募集しております



連絡先:東京合唱団事務局

Tel.090-1701-3438 Fax.03-3395-2546 e-mail sembakyo@qq8.so-net.ne.jp

東京合唱団ホームページ <http://tokyo-gasshodan.com/>

本公演にご支援をいただいた方々



- 協力 上野学園 石橋メモリアルホール
後援 秋田魁新報社
岩手日報社
学校法人上野学園
河北新報社
時事通信社
台東区合唱連盟
東奥日報社
トムソン・ロイター
日本経済新聞社
福島民報社
福島民友新聞社
山形新聞・山形放送
読売新聞社 (五十音順)
協賛 株式会社クラレ
東レ・メディカル株式会社
トヨタ自動車株式会社
株式会社 須賀楽器・駿台音楽院・スガスタジオ(千代田区)
株式会社ホテルニューカマクラ 社長 西村和素
前田幸康サポータークラブ
内山正紀
竹田晴彦
藤崎長之助
星 佳芳
森田君子
吉岡唯夫 (敬称略)

ここにお名前を記していない多くの方々にも
さまざまにご支援、ご協力を賜りました。
厚くお礼申し上げます。

